

優秀映画鑑賞会 特薦

文部科学省選定 特選

日本映画ペンクラブ推薦 第2位

キネマ旬報文化映画ベストテン 第1位

日本教育映像祭 文部大臣賞

毎日映画コンクール 文化映画賞

伝統芸能の粹

世阿弥の能



監修のことば

「世阿弥の能」というこの映画の題名には、二つの意図が含まれていたように思われる。一つは能の歴史における世阿弥の位置を映像化することであり、もう一つは世阿弥の能作品の特色を紹介することである。一冊の本にもなると思われるこの課題を、五十分足らずの小編映画に収めるのは至難の業だが、スタッフ諸氏の必死の努力で完成に漕ぎつけることができた。上記の二つめの目的のためには、世阿弥の代表作四編と、対照のための観阿弥作一編を取り上げたわけだが、いずれもその主題を描く上でもっともふさわしい方々に、囃子方を含めて出演してもらったので、一段と成果があがったと考えている。

せりふ劇的な観阿弥の「自然居士」では、作者が能への摂取を試みたとされる〔曲舞〕の部分をつけ加える形にした。世阿弥の「砧」は、前半が現在能で後半が夢幻能という構想で恋の妄執を描く。作者の自信作なので、たつぷりと鑑賞できるように配慮した。「井筒」は、幽玄な女能の代表作で、夫の形見の衣裳姿を井戸に映す場面がクライマックスとなる後場を取り上げた。冒頭の「清経」は、笛の音に誘われて登場する〔恋之音取〕の部分とした。現在ふつうには演じない部分だが、これが作者の本来の意図に合致した形かもしれない。また舞踊の面白さを見せる「融」では、〔笏之舞〕の演出による流麗な盤渉急之舞で、この映画を締めくくった。



「自然居士」よりシテ・友枝昭世 ワキ・宝生閑



「清経」よりシテ・友枝昭世



「砧」よりシテ・浅見真州



「井筒」よりシテ・山本順之



「融」よりシテ・本田光洋

■「世阿弥の能」を演出して 村山正実(映画監督)

世阿弥の記録映画をつくることになり、映画の製作委員会ができ、約一年ほどかけてシナリオがつくられたのだが、世阿弥の生涯を跡づける確かな映像資料はほとんど皆無に近かった。監修指導をお願いした先生方からも「果たして映画になるだろうか」と、心配の声がしばしば出た。

たしかな資料として残っているものは、能本・伝書・書状など、映像としては極めて地味なものばかりである。

世阿弥が持っていたとおもわれる能面や能装束もほとんどない、能舞台も現存していない、ないないづくしである。

そして今回は伝記映画をつくるつもりはないのだが、世阿弥本人の肖像画すらも残っていない現実、俳優を使うことができる劇映画と違い、「事実を持って語る」ことをモットーとする記録映画の場合、なんとも心細いさがりだった。

ともあれ世阿弥が作った能は今もほとんど昔の台本どおりに演じられているから、彼の代表的な作品を取り上げ、その優れた舞台を見ることで、謎めいた世阿弥の生涯を描くしかない、それがなによりも世阿弥を語り、能の魅力を伝えてくれる、と考えた。

世阿弥が中世において発見したドラマは、死者を舞台に登場させ、生前の思いを語らせ、また再び闇の世界に戻っていくという「夢幻能」という形式であったが、今回の映画も彼の「夢幻能」のように、世阿弥の顔や姿は登場しないが、画面の隅々から世阿弥自身が立ち現われてくれることを願わずにはいられなかった。

映画の冒頭と終わりには、全体を包みこむようなキイ・イメージとして三井文庫の所蔵品で、重要美術品の能面「中将」を使わせて頂いた。

この映画の監修指導には、取り上げた演目と舞台撮影に関しては、横道万里雄先生に、史料撮影に関しては、表章先生に、舞台のキャスティング等演技事務の仕事は鏡仙会の荻原達子さんに、また文化庁の主任調査官の高橋秀雄先生にも加わってもらい、それぞれご協力頂きました。

特に今回、観世宗家と、奈良生駒の宝山寺に残る世阿弥自筆の能本や「風姿花伝」等、実物を初めて撮影できたことがこの映画に一層厚みを加えてくれたと思う。



晩年、佐渡に流され、世阿弥が上陸した多田の浦海岸



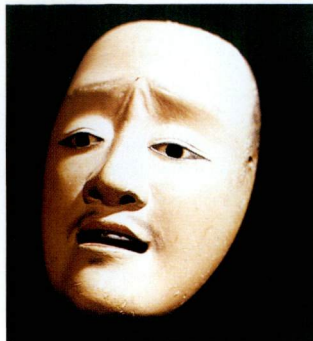
世阿弥自筆の能本



「風姿花伝」の奥書



世阿弥が遠く都を思い、思索をねったといわれる腰掛け石(正法寺)



重要美術品：中將(鼻まがり中將)
伝福来作／三井文庫蔵



鏡の間で面をかける(井筒)国立能楽堂にて



毎年12月春日若宮御祭に行なわれる、後宴之式能の「竹生鳥より」

作品名：シリーズ〈伝統芸能の粹〉
「世阿弥の能」(35mm/カラー49分)
〈財団設立十周年記念作品〉

企画：財団法人ポーラ伝統文化振興財団
製作：株式会社桜映画社
監修：横道萬里雄／表章
高橋秀雄／荻原達子

スタッフ：製作・村山和雄／福間順子
脚本・演出・村山正実
撮影・西山東男
応援撮影・八木義順／山屋恵司
照明・本橋俊男
現地録音・福田伸
編集・吉田栄子
ネガ編集・加納宗子
音楽・山崎宏
タイトル文字・小松茂美
録音・東亜映像録音
現像・ソニーPCL
語り・加賀美幸子／観世栄夫

撮影協力：
観世宗家
国立能楽堂
鏡仙会
国立公文書館
国立歴史民俗博物館
東京国立博物館
宮内庁正倉院事務所
一宮博物館
永青文庫
承天閣美術館
水府明徳会彰考館
徳川黎明会
法政大学能楽研究所
三井文庫
法政大学鴻山文庫
大山阿夫利神社
春日大社
勝楽寺
興福寺
新熊野神社
浄土真宗本願寺
談山神社
醍醐寺
天河大辨財天社
宝山寺
補巖寺
妙興寺
鹿苑寺
春日若宮おん祭り保存会

協力：



芸術文化振興基金

出演者(五十音順)：

シ テ 浅見真州
友枝昭世
本田光洋
山本順之
ツ レ 西村高夫
子 方 塩津圭介
ワ キ 工藤和哉
殿田謙吉
宝生 閑
ワキツレ 宝生欣哉
ア イ 野村良介
山本則直
笛 一噌仙幸
一噌幸政
小 鼓 北村 治
敷村鉄雄
宮増純三
大 鼓 柿原崇志
安福建雄
山本 孝
太 鼓 小寺佐七
三島元太郎
地 頭 粟谷能夫
観世鏡之丞
観世栄夫



世阿弥が佐渡に流されたのは72才頃であった

表紙写真／小面(伝龍右衛門作)重要美術品・三井文庫蔵

Pola Foundation for the Promotion of Traditional Japanese Culture

公益財団法人 **ポーラ伝統文化振興財団**

<http://www.polaaculture.or.jp>

〒141-0031 東京都品川区西五反田 2-2-10 ポーラ第2五反田ビル

TEL.03-3494-7653 FAX.03-3494-7597